

動詞「とる」の意味記述の一考察

朴修鏡*

目次

1. はじめに
 2. 先行研究としての三辞典
 3. 「とる」の意味項目と意味記述
 - 1 「獲得」と関わる意味項目
 - 1-1 第1義「具体的動作」
 - 1-2 「所有」と関わる意味項目
 - 1-2-1 第2義「獲得」
 - 1-2-2 第3義「捕獲、確保」
 - 1-2-3 第4義「占有」
 - 1-3 第5義「選擇、抽出」
 - 1-4 第6義「作成」
 - 1-5 第7義「遂行」
 - 1-6 第8義「解釋」
 - 2 「除去」と関わる意味項目
 - 2-1 第9義「除去」
 4. おわりに
-

1. はじめに

本稿の分析対象である動詞「とる」は多義的で数多くの意味を有する。しかし、それに値する幅広い研究は行われていないのが現状である。1) そこで、本稿は『大辭林』『廣辭苑』『日本國語大辭典』の意味記述を先行研究として「とる」の意味記述を行うことにする。これらの三辞典を先行研究として選んだ理由はこれらの辞典が分析対象である「とる」の用法を

* 釜山大學校 講師 日本語學 意味論

1) 主要な先行研究として拙稿(2002、2003a、2003b、2003c、2004)が取り上げられるが、それは「とる」の多義構造の解明や類語(「つかむ」「握る」など)との比較・對照や「とる」の意味を教えるための指導方案などに焦点をおいたものである。

他に比べ、比較的偏りのない形でよくまとめていると思ったからである。しかし、本稿は、辞典による用法の記述は網羅的ではないという田中(1990、p.128)の辞典の用法に対する前提と語義の具現化はコンテキストで実現されるという田中(1989、pp.372-373)の立場に従う。そこで、本稿は新聞や文學作品から見つけ出した用例で辞典の用法の不十分さを補うことにする。

2. 先行研究としての三辞典

まず、三辞典(『大辭林』(1995)、『廣辭苑』(1998)、『日本國語大辭典』(1972~1976))が立てる大分類の配置順序をみる。便宜上、『大辭林』の大分類を簡略化して、それを用い『廣辭苑』と『日本國語大辭典』の配置順序を示すと次のようになる。²⁾

- 『大辭林』1「手に持つ」2「獲得」3「除去」4「身に負う」5「選擇」
6「作成」7「解釋」8「占有」9「實行」
『廣辭苑』1「手に持つ」2「除去、獲得」3「身に負う」4「選擇」
5「作成」6「解釋」7「占有」8「實行」
『日本國語大辭典』1「手に持つ」2「獲得」3「除去」4「身に負う」
5「選擇、占有」6「作成」7「解釋」8「實行」

大分類の意味項目から考察するが、『廣辭苑』大分類2(「除去、獲得」)に問題点があることがわかる。相反している意味(例えば、「汚れをとる」(除去)「月給をとる」(獲得))を同じ意味項目に配置しているのである。このようなことは他の兩辞典からも見つかる。『大辭林』大分類3(「除去」)の小分類に、「獲得」の意味と考えられる「家賃をとる」が配置されていて、『日本國語大辭典』大分類3(「除去」)の小分類に、同じく「税金をとる」と「授業料をとる」が配置されている。

そして、「とる」は三辞典ともに所有と關わる意味(「獲得」「占有」)を設けているが、類似した意味がまとめて配置されていない。また、「とる」は「スズメ・蝶・マグロをとる」のような用法を持つが、これらの用法が、『大辭林』では大分類2(「獲得」)に配置され、『廣辭苑』と『日本國語大辭典』では大分類1(「手に持つ」)に配置されていて、用法の配置に亂れがみられる。

2) 大分類の項としては單獨で使われない用法(「～にとって」)と複合動詞で使われる用法(「式をとり行う」)は除外したことを断っておく。

3. 「とる」の意味項目と意味記述

本稿では「とる」の多義を次のように九つの意味項目に分ける。第1義「具体的動作」第2義「獲得」第3義「捕獲、確保」第4義「占有」第5義「選擇、抽出」第6義「作成」第7義「遂行」第8義「解釋」第9義「除去」。この九つの意味項目は下記のように大きく「獲得」と關わる意味項目と「除去」と關わる意味項目、二つに分けることができる。

- 1 「獲得」と關わる意味項目
 - 1-1 第1義「具体的動作」
 - 1-2 「所有」と關わる意味項目
 - 1-2-1 第2義「獲得」
 - 1-2-2 第3義「捕獲、確保」
 - 1-2-3 第4義「占有」
 - 1-3 第5義「選擇、抽出」
 - 1-4 第6義「作成」
 - 1-5 第7義「遂行」
 - 1-6 第8義「解釋」
- 2 「除去」と關わる意味項目
 - 2-1 第9義「除去」

配置した順序は抽象的な意味を後に配置しながら、類似した意味項目(「獲得」「捕獲、確保」「占有」)は「所有」と關わる意味項目としてまとめて配置する。また、他の意味項目と非常に異質的な意味項目(「除去」)は最も最後に配置する。

1 「獲得」と關わる意味項目

1-1 第1義「具体的動作」(何らかの方法で對象を確保して主体の制御領域に移す)

① 「何らかの方法で對象を確保して主体の制御領域に移す」

1) (a) 机の上の本をとる / 書棚の本をとる / 郵便受けから郵便をとる

i ちびが指を曲げて呼ぶと大男が音もなくやってきて、テーブルの上のコーラの缶を
とった。(世界の終りと)³⁾

ii 横の物を縦にもしないという言葉そのままに不精で、傍の物を取るのにもいちいち
春子を呼びつける志郎であるのに、これらの生き物の世話は驚くほどまめであっ

3) 用例は主に青空文庫(インターネット電子図書館)と鈴木重幸先生(元拓殖大學教授)からいただいた、文學作品を集めたCDに載っているものとして、兩方ともにボランティア活動により、作られたものと知っている。

た。(玩具)

iii 机の隅には竹筒の山が築かれ、課員たちは一枚きざみおわるたびに眼もあげずに左へ移し、右から一枚とった。(流亡記)

(b) 茶碗を手にとって見る

i それから、黄色いきのこを手にとると、こいつは傷ものだから半分にしてよ、と値切りにかかった。(村の名前)

典型的に対象をつかんだり、握ったりして、自分の手などに移す。対象は手に収まるぐらいの生活雑貨で、対象をいくつ取るかについては中立的である。1) a の用例から対象を自分側に移すことがよく分かる。1) b は自分側のどこに移しているのかその場所を明らかにしている。

② 「何らかの方法で対象を確保し制御する」

2) (a) 手綱をとるやいなや走り出す

i そこに繋いでおいたこの國第一の名馬「瞬」というのに飛び乗って、手綱を執るが早いか馬の横腹を拍車で千切れる程蹴り付けました。(白髪小僧)

(b) まわしをとる

i 組んで、まわしを取るなり大きな相手をぶん投げた。(千代の富士)

(c) 飛んでくるボールをとる

i どのように打ったか、どうボールを捕ったか覚えていないと選手たちはいう。

(社説86)

(d) 迷子にならないように手をとる

i と一喝して、いきなり、その髪を執って、引摺倒し、拳の痛くなるほど、滅茶苦茶に撲った。(重右衛門)

ii 凜々といいはなった佐々木三冬、腕を撃たれて木刀を落とし、両手をついてへいつくばった若侍のえりがみを取って引き起したかを見るや、「えい！」(劍客商賣)

(e) 手首をとって脈を計る

i きっとあれは蠟燭だと思っていると、レイ子が顔を覗き込み、手首を取って脈拍を確かめて、死んでないよ、とオキナワに言った。(限りなく透明)

ii 蔦代の母親の手首をそと取って、また脈を診ている。(木瓜の花)

3) 馬の口をとる

i こうして馬の口を取って、歩いて行くことは、源にとりまして言うに言われぬ苦痛です。源も万更憐みを知らん男でもない。いや、大知りで、随分落魄れた友人を助けたことも有るし、難澁した旅人に恵んでやった例もある。(葦草履)

ii 蹲踞していた連中が、忙しく立って、二人の馬の口を取る。(羅生門・鼻)

2) a は典型的に動詞「つかむ」「握る」に当る意味である。しかし、典型的という条件どおり「つかむ」「握る」と限定することはできない。ただし、ここでいえることは対象を何らかの方法で手で確保するが、移すという意味は含まれていないという点である。2) b は動く対象をつかんで、それを固定させる。2) c は動く対象をつかむことで動きを制御する。2) d は対象の動く可能性を押さえる。2) e はある一定の情報が対象を手でつかむこと(触覚)で把握できるようになる。3) は対象をつかんで、それを主体の意図するとおりに引いたり、動かしたりする。

③ 「(身の周りに)移す」

4) 料理を小皿にとる

i 気味が悪かったが、つくねがおいしそうなので私も皿に取った。(孤高の人)

4)で対象は手の届くところにあり、主体はその対象を手の届く他のところに移動させる。

1-2 「所有」と關わる意味項目

1-2-1 第2義「獲得」(主体の制御領域に移して自分の物にする)

① 「採集して自分の物にする」

5) きのこと・山菜・貝をとる

i 彼は又山であらゆる茸を採って食ったそうである。(彼岸過迄)

対象は山菜や貝など動きのない自然物で、誰にも所有されていない物である。これらを自分側に移す。そして、これは結果的に主体の所有になることが日常的である。

② 「正当な方法で能動的に自分の物にする」

6) 月給・給料・高給・賦課金・家賃・月謝・代金・初診料・手数料・税金をとる

i 「自分が働いて取った金だ」(劉廣福)

ii 上院財政委では外国人から1人5ドルの入國税を取る法案が可決された。(社説85)

7) 壽司・新聞・出前・あんまをとる

i テレビも観なければラジオも聴かず、新聞さえ取らぬ眞名瀬は世間の動向にはとんと疎く、もちろん商賣柄情報は手近なところに溢れていたから、安田講堂で何か騒ぎがあったくらいは知っていたものの、子供の頃よく遊んだ本郷の界限はいまどうなっているのだろうか、懐旧の情に驅られたくらいで、學

生運動といわれても畫然たるイメージが湧かなかった。(石の來歴)

8) 注文をとる

- i 八幡製鐵、三菱化成のような基幹産業でも給料の遅配・欠配が相次ぐ有り様で、注文を取ろうにも仕事がない。(有訓無訓)

6)は主体の何らかの権利で金銭を相手からもらう。そして、商賣(金銭の取引)の場面では注文の申し込みと注文の受け入れは同時に行われるが、7)は申し込む側からの表現で、8)は受け入れ側の申し込む側への能動的な働きかけである。

9) 保健所の許可・相手の了解・休暇・暇・運轉免許をとる

- i 役所から許しを取ったらしく、与平は仕事にも出ず、榮二に付きっきりで世話を~~して~~いて、榮二の養生に障ると思われるようなことは、いっさい押しのけて近よせなかった。(さぶ)

10) 賞・よい成績・學位・合格点をとる

- i 賢一郎が自分と結婚できるだけの社會的な資格を取るかどうか。(青春の蹉跎)

相手から許可、理解、認めなどを得て、9)のように主体はあることができるようになったり、10)のようにある好ましい状態になったりする。

11) 息子に嫁・養子・養女・弟子をとる

- i 學校を出て、いい會社に入って、気に入った嫁をとる。(きもの)

11)は主体が対象を家族構成員として自分の管理、支配下におくことである。緊密な人間関係であるため、影響力も強い。対象が「弟子」の場合は家族構成員になるのではないが、主体と対象の関係は上下関係となり、「嫁・養子・養女」のように緊密な人間関係を成す。

③ 「不当な方法で自分の物にする」

12) 大きい子が小さい子の玩具をとる

- i 原田熊雄の「西園寺公と政局」の中に、末次が支那を領土的に取ってしまふということをしきりに言っていると、末次の率いているような右翼には陸軍ですら愛想をつかし始めたとか、松岡が何か言い出せば末次はいつも必ずそれを弁護するか共鳴する性だとかいうような話がたくさん出て来る。(山本五十六)

13) 財布・他人のものをとる

- i 「……今朝ね、副會計のなつこさんのカバンからおかね盗ったひとがいるのよ。(オキナワ)

対象を自分の物にする方法にはいろいろあるが、それが社会的に正当ではない場合もある。つまり、所有する権利のない物を対象にして自分の物にすると、不当な方法による「獲得」になる。12)は主体の不当な行爲(物理的な力の行使)が行なわれる際、対象の所有者にもその行爲が不当であることが知られている。13)は12)に比べて、そのような行爲が行われること自体がその時点で対象の所有者には知られていない。12)は「奪う」の意味であり、13)は「盗む」の意味である。

④「攝取して自分の物にする」

14) ビタミン・野菜・朝食をとる

- i 烈しい強制労働につかれた人間が塩を攝らねば、次第に衰弱していく、やがては疲勞死をする。(白い人)

15) 睡眠・休養・暖・涼をとる

- i 予定通り、おれたちは船内で食事をし、四時間の睡眠をとった。(四千字劇場)

14)で主体は対象を自分の物にするが、これは一回行われると、元に戻せない獲得である。体がそれを攝取するからである。そして、その結果、体は対象に恵まれるようになる。対象は主に栄養素や栄養分である。15)は体内に攝取する形ではないが、快適な体調を作るための物で、主体の身体に影響する対象であることは変わらない。

⑤「自分のものとして引き受ける」

16) 責任・犬馬の勞・仲介の勞をとる

- i トラブルが起きても、資格がないと責任を取れない。(朝日新聞)

17) 跡をとる

- i おとなしい彼女の両親は彼女の兄が嫁をもらってあとを取ってから嫁に押されがちで、小遣錢もあまり自由にならない。(女中っ子)

18) 年をとる

- i 我々はみんな年をとる。(世界の終りと)

19) 不覺・他者に後れをとる / 若い者に引けをとらない

- i 出世も糖尿病にたたられ、同期の兄弟弟子若三杉におくれをとった。(千

代の富士)

ここまでは主体の能動的な意思で対象を自分の物にする用法をみてきたが、16)は対象が好ましくないものであり、17)は運命的な要素が含まれている対象である。18)19)は主体の意思とは関係のないものである。主体の物になることには変わらないが、それが能動的ではない。18)は運命的に対象と関わることが決まっているし、19)はマイナス的なものが対象になっている場合である。

1-2-2 第3義「捕獲、確保」(確保して自分の物にする)

①「捕獲して自分の物にする」

20) 蝶・すずめ・魚・マグロ・熊をとる

i 隆起珊瑚礁の石を積んだ低い垣の内側に蟹を獲る丸い金網が十數個ころがっている。(豚の報い)

動きのある自然の対象物を動かないようにして(逃げないようにして)、自分の物にする。対象は主に虫、すずめ、魚などの動物類である。対象が動きのある生命体であることから、それを動かないようにすることは支配することと等しくなる。

②「利用価値のあるものや人を確保し、一時的に支配下におく」

21) 抵当・担保・人質をとる

i 4月からは代金を先にもらうなどの担保を取ることにした。(朝日新聞)

主体の追求する目的がかなうように、価値のある物を主体の影響力下に押さえておく。

1-2-3 第4義「占有」(場所や時間を占有する)

①「場所を占有する」

22) 席・會議室・特別室をとる

i すると、この席を取るために始發驛で20分も並んだのだ、私には座る権利がある、という。(成功方程式)

23) 場所・スペースをとる

i と挨拶して玄関に立っているのだが、肥っているのはいやに場所をとる。(あうん)

22)は座ったりする行動で、一定の場所を占める。物理的な容積を占めるのである。23)

は占有することの遮断の機能を意味にしたものと思われる。主体が場所を占有して、その場所は他にとって利用できなくなる。

② 「時間や手間を占有し確保しておく」

24) 一時間ほど時間をとってこないか

i 校長先生は、子供に、自分の好きなことをさせる自由時間が、とても大切と
考えていたから、放課後の、この時間は、ふつうの小学校より、少し長め
に、とっていた。(トットちゃん)

25) 料理に時間をとる / 準備に手間をとる

i スープからはじまったから、料理が終るまで、かなりな時間をとった。(点と線)

24)は他のことに時間を使うのではなく、特別なあることに時間を使うようにする。25)はあることに時間や手間を必要以上に浪費してしまうことである。その行為によって、その対象はなくなる。

③ 「予め占有できるように確保しておく(予約する)」

26) 特別席をとる / 金曜の最終便をとってある

i 河合千代子は、そのころなかなか手に入りにくくなっていた寝台券がやっと取れたので、山本とかねての約束通り、二十五日の晚十時十分東京驛發の下關行急行に乗って山本に會いに宮島へ向った。(山本五十六)

未来のある一定の時間にある一定の場所が占有できるように現在の時点で、用意する。

1-3 第5義「選擇、抽出」(ある対象から主体の意図にかなう物を選択、抽出する)

① 「複数の中から対象を選ぶ」

27) たくさんの中から一つだけをとる / クジをとる

i ペムペルは一寸立ちどまってそれを見たけれども、又走ってもうまっ黒に見えているトマトの木から、あの黄いろの實のなるトマトの木から、黄いろのトマトの實を四つとった。(黄色のトマト)

28) 金より名譽をとる

i 生涯のプラスを捨てて生涯のマイナスを取る馬鹿はないのだ。(青春の蹉跎)

27)は対象を移動する場合、移動すべきものの数よりも対象の数が多い場合、そこから、選擇するという行為が生じる。このように「とる」はその行為で「選ぶ」ということが表

せるが、それはどうしてであろう。それは「とる」が移動性を持ち、それが弁別力を持っているからであろう。選ぶ対象は同類の中で、ある特徴や価値のあるものなどである。複数の中から所定の数だけを手にする。28)は「とる」という具体的な行爲は捨象されるが、選ぶということで、結果的に主体は対象を所有するようになる。27)から対象を所有するようになる日常的なことが窺える。

② 「選んで採用する」

29) 新卒を理科系からとる

i ごく一般的に考えれば、フットワークに優れている人を採るに違いない。(成功方程式)

30) 一學年につき一八〇人とる

i このくらい手間をかけなければ、ブラウン大が望む多様性を持った學生を採るのは不可能なのだという。(社説88)

29)で主体は価値のある人間を選んで、双方が認める一定の期間中、自分の管理、支配下に対象を配置する。主体が營利を目的にする組織である場合、それはその人間の価値を活用するためである。30)で主体は營利を目的にしないが、複数の中から優れた人間を選択する。

③ 「選んで抽出する」

31) 標本を作るため、死体から骨をとる

i 老人の願いは若く美しい女の新鮮な死体から取った新しい骨で標本を造りたいということであるのだが、新鮮な死体は解剖に使用され、骨を取るには腐爛した死体しか廻して貰えないのである。(玩具)

32) 意味を捨てて読みと文字だけをとる

i そこで日本における X i n g o n j u (眞言宗)という宗教の開祖で名前を C o b o d a i x i (弘法大師)という仏僧が、主の [西暦] 八一〇年項、中國語の文字四十七・・・これはまた四十七音節でもある・・・を選び出し、意味は捨てて読みと文字だけを採って・・・この文字はその形状が大きく変りいまではほとんどべつなものになってしまっている・・・日本語のどんな単語でも的確に書き表わすことのできるアルファベットを考案した。(おどるでく)

33) アオカビの一種から抗生物質をとる / 大豆から油をとる

i へその緒から採った血液中の幹細胞(様々な組織に変化できる細胞)に A D A をつくる遺伝子を組み込み、これを患者の体内にもどした。(日経9305)

31)はある全体の中から、必要な部分だけを物理的に分離して、抽出する。32)で物理的な分離は捨象されるが、必要な部分だけを選び出す意味はそのままである。33)は抽出することが新しい物を作り出すことと等しい場合である。

1-4 第6義「作成」(元の対象から主体の願う一部分(像、模様など)を同じく作り出す)

- 34) 景色を写真に・演奏会の模様を録音に・野鳥の鳴き声をテープに・ノートにとる
- i それも真面目な着物ではいけないので、筒ッぽにしたり、パジャマのような形にしたり、ナイト・ガウンのようにしたり、反物のまま身体に巻きつけてところどころをブローチで止めたり、そうしてそんなりをしてはただ家の中を往ったり来たりして、鏡の前に立って見るとか、いろいろなポーズを写真に撮るとかして見るのです。(痴人の愛)
- 35) 記念写真・スナップ・映畫・コピー・レントゲン・心電図・メモ・控えをとる
- i 同大学の澤井一彦助教授とともに、骨格のレントゲン写真をとった。(千代の富士)
- 36) 洋服の型・石膏で型をとる
- i 金冠をかぶせる齒の齒型を取る段になって、診察室の奥の扉から彼が入ってきた。(妊娠カレンダー)
- 37) データ・平均・統計をとる
- i しばしば、現場のことを知らぬ専門家がデータを取ると、現場の實態とかならずしもマッチしないデータが集まることにもなりかねないのであるが、同時に専門家だけがデータを掌握することは、しばしば現場の職長やワーカーの技能や熟練を軽視し、ともすれば現場のワーカーに自分の頭を使わずに、単能化した作業を固定した形でやらせて、きわめて硬直化した生産システムを強制することに通じる。(企業發展史)

34)は対象と同じものを作り出すことを目標にする。対象は映像や音などのものである。35)はある行爲(とる)の結果出来上がったものを助詞ヲの形で表現する用例である。36)は34)と違って轉寫による生産法ではないが、何か同じものを作り出すという面で34)と共通する。生産物は立体的なものである。37)は34)36)に比べて物理的な作業によらない作成で、作成物は情報関係のものである。しかし、いずれにしても、オリジナルからコピーを新たに作り出すことは、そのオリジナルをあたかも移動したかのように見える。そのように捉えるのは人間の常である。

1-5 第 7 義「遂行」(その言葉で表わされる(象徴される)動作・行爲を遂行する)

① 「何かを行う」

38) 箸・鍬・船の舵・教鞭をとる

i 「さあ、どうぞ召上って下さい」と田辺の細君に言われて、「戴きます」とは答えたが夫婦とも直ぐ箸を取ろうとしなかった。(櫻の實の熟す)

ii 僕はこの伯母がメシをたべろとすすめても、めったに箸を取らなかつた。(砧をうつ女)

39) 事務・政務をとる

i 成程父は教育といっても、昔の寺小屋教育ぎりで、新聞も漢語字引と首引で漸く読み覺えたという人だから、今の學校出の若い者と机を列べて事務を執らされては、さぞ辛い事も有ろうと、そんな事には浮の空の察しの無かつた私にも、話を聞けば能く分つて、同情が起らぬでもないが、しかし、それだからお前は縣廳へ勤めるなどして自分一人だけの事は爲てくれと、言われた時には情なかつた。(平凡)

40) 行動・處置・連絡・コンタクト・カウント・カルタ・相撲をとる

i そこにロレダン艦隊を見出さなかつたロンゴは、自分たちが遅れたことからすぐに所定の行動を取ることが躊躇され、しばらくそこで、友軍到着を待つことに決めたのである。(コンスタンテ)

38)は對象を道具としてつかんで、ある行動を遂行する。39)40)は動詞「とる」が「事務、政務、行動、處置、連絡」など様々な行爲と結合している場合で、「とる」の元々指す動作は完全に捨象されている。ただ、その動詞としての機能、つまり、何かを行うという「實行性」だけが残っている。對象と「とる」の結びつきで成す意味は對象の意味によって決まる。對象の性質を見ると、それは動作名詞が参考になるだろう。

村木(1994、p.216)を参考すると、例えば、同じ「電話」という名詞であっても、「あなたのうちに電話がありますか」は具体名詞であるが、「あなたにさきほど電話がありました」は動作名詞であるという。ただし、39)は事務用品を手にして、所定の動作を行うことが連想される用例である。先行事項が省略されて、後項事項が繰り上げられた(助詞ヲに登場)と思われる。40)は39)と同じく「行う」という意味を持つが、先行事項が存在するかしないかは不明である。また、40)の「相撲をとる」はこれで行われる行爲が「まわしをとる」という手の動作を含むが、日本語母語話者によると、39)「事務・政務をとる」と派生経路が異なるそうである。つまり、「まわしをとる」という先行事項があつて成り立つのではなく、「相撲」が動作名詞として直接助詞ヲに位置することによるものと思われる。「相撲」は『日本國語大辭典』によると、「すもう」という動詞に由來する。

② 「行うことで周囲の人を支配(コントロール)する」

41) 指揮・乾杯の音頭・リード・リーダーシップをとる

i 「さ、それじゃ、まず乾杯」金井さんが音頭を取って、「おめでとう！」みんなでいっせいに叫んでジュースで乾杯する。(誰かが触った)

41)はある行動を行うことで、他者の動きがコントロールできるようになる。

③ 「行うことで把握する」

42) 脈・寸法をとる

i 彼は自分の脈を取って見て、その早いのに驚ろいた。指頭に触れるピンピンという音が、秒を刻む袂時計の音と錯綜して、彼の耳に異様な節奏を伝えた。それでも彼は我慢して、するだけの仕事を外でした。(道草)

43) 出席・点呼をとる

i コロラド大学では、最初の授業と、その二週間後に二度出席を取って、その結果を事務室に報告することになっていたのだ。(若き数学者の)

42)は対象から脈拍や長さなどの情報を何らかの手段で入手する行為で、手などを動かし、何かを把握する。43)は42)に比べ、行為の具体性は捨象されるが、実行する行為で主体はある状態を把握するようになる。

④ 「選んで行なう」

44) 自由行動・強硬な手段・毅然たる態度をとる

i 「どうもこまった。」かねて兄妹に對して下僕のような態度を取っている彦介の事情は承知してはいるものの、今この狼狽ぶりにいらだたく「何がこまるんだ。」(普賢)

45) とるべき唯一の方策 / どちらの方法をとるべきだろう

i 竹越先生が概略の経過報告と、全組合員の協力を要望するあいさつをおこなってから、まずこの學校分會の取るべき態度について、協議にはいった。

(人間の壁・下)

46) 針路を北にとる / 徳本峠を越えて上高地へと道をとる / 學者への道をとる

i 北原がもし壽善なら、母親を權に返し、奉公してでも獨學の道を採るだろう。(登攀)

44)は選擇の内容が対象を修飾する形で現れている。そして、その内容は動作、態度などである。45)で選擇対象は行動様式であるため、それを選擇することはそれを實行する

ことになる。46)は方向や針路を限定する選擇肢を選ぶため、選擇行爲で主体は選んだ方向や針路を推進することになる。

1-6 第 8 義「解釋」(情報や物事を解釋する)

47) 彼の顔を承認の意味にとる

i まず章題の地方自治は、「地方政府」という具体的な組織を指す意味にとるほうが正しいであろう。(憲法を讀む)

48) 冗談を本氣ととる / 悪くとらないでほしい

i コップに水が半分はいつている。これを「半分ある」と見るか「半分からっぽ」ととるか違いが出るところだ。(天聲人語88)

ii 父なんかはよく「無事これ名馬」なんて、まあ悪くとれば相当にいろいろ悪くとれる言葉でぼくを評してきたけれど、確かに無事は無事だったのだ。(赤頭巾ちゃん)

47)の對象は言語表現や出來事などで、主体は對象が持つ意味を解釋し受け止める。48)は對象が備えている意味を記述するのではなく、主体の主觀が介入し、主体が思う何かに同定したり、形容したりする。

49) 文字通りに・まじめに・妙に・平たくとる

i 《さあ、何くわぬ顔して、うちの大學へ行ったかも知れませんよ。まあ僕の言うことをまともにとったら、一晩くらい泣き明かしたかも知れないしね》《そうですね。》(神の汚れた手)

49)は解釋、評価した結果が文に現れないが、代わりにどのような態度で解釋、評価したのかが讀み取れる修飾句が文に現れる。述語の様態を表すことで、その思考作用の結果が推論できる。「文字通りに」なら、その言語形式が意味するとおりに解釋するだろうし、「平たくとらず」なら、言語形式が持っている意味を歪めて解釋することになるだろう。

2 「除去」と關わる意味項目

2-1 第 9 義「除去」 ((邪魔な)對象をその存在する場所から移す)

ここでいう「除去」というのは對象が元々あった所からそれ以上それをそこに存在しないようにするという意味合いで用いる。「除去」といえば、對象自体を滅する意味合いがあるが、ここでいう「除去」はそのような意味ではない。その場から無くなることで對象自体が無くなる場合もあるし、それだけでは何も変化が起こらない場合もある。しかし、それらが元の場所を離脱してどうなるのかは意味論的に焦点の置かれないうことであり、ただ對象

の性質によるだけである。また、対象に働きかけることは確かであるが、それは対象に変化を起こすことに目的があるのではなく、対象の存在していたところに変化を起こすことに目的がある。そこで、その存在していたところが重要な要素として位置付けられる。

① 「その場で邪魔になる物を外す」

50) 箱のふた・本のカバー・眼鏡をとる / 帽子をとって挨拶する

i 飯櫃の蓋を取って、あつめ飯の臭気を嗅いで見ると、丑松は最早嘆息して
うって、そこそこにして膳を押遣ったのである。(破戒)

日常的に物を移動させると、元のところにその対象はそれ以上存在しないことをわれわれは経験する。「とる」は移動動詞として、その経験を意味化している。ある物が邪魔になる時に、それを移動させれば、邪魔にならないということである。50)はある物がある場面で邪魔(不都合)になり、それで、その場所から対象を手を持ったりし、移動させ、その場所から存在しないようにする。

② 「常に邪魔な物を除去する」

51) しみ・澱・痛み・疲れをとる

i 湿気がうまく取れないままバジャマを着て出ると、女は早速ビールを抜き「さあ
さあ」と言った。(蛇を踏む)

対象は元々邪魔な物であり、その対象は元々存在していたところを離れると、それ自体がなくなることになる。

4. おわりに

本稿は動詞「とる」を次の9種の意味項目に分けた。第1義「具体的動作」、第2義「獲得」、第3義「捕獲、確保」、第4義「占有」、第5義「選擇、抽出」、第6義「作成」、第7義「遂行」、第8義「解釋」、第9義「除去」。しかし、これらは目次からわかるように大きく第1義～第8義と第9義の二つに分けることができ、また、第2義「獲得」、第3義「捕獲、確保」、第4義「占有」は更に上位概念(所有)でまとめることができる。ここで本稿の記述は細分化するより、まとめる方針をとってきたことを改めて記しておく。

【參考文獻】

- 新城出編(1998)『廣辭苑』第5版 岩波書店 p.1954
- 日本大辭典刊行會編(1972～1976)『日本國語大辭典』小學館 pp.86-87
- 松村明編(1995)『大辭林』第2版 三省堂 p.1766
- 國廣哲弥(1994)「認知的多議論-現象素の提唱-」『言語研究』106日本言語學會 pp.25-31
- 田中茂範(1989)「動詞の意味のネットワーク：認知意味論的枠組み」『茨城大學教養部紀要』21 茨城大學教養部 pp.372-373
- _____(1990)『認知意味論 英語動詞の多義の構造』三友社出版 p.128
- 朴修鏡(2002)「動詞『とる』の多義構造-現象素の分析から-」『言語教育研究』2拓殖大學大學院 言語教育研究科 pp.31-51
- _____(2003a)「動詞『とる』の意味分析-その類語と比較・對照して-」『言語教育研究』3拓殖 大學大學院言語教育研究科 pp.9-17
- _____(2003b)「동사『とる』『つかむ』『잡다』의 인지적 비교, 대조연구」『일어교육』25 한국 일본어교육학회 pp.67-88
- _____(2003c)「動詞『とる』の意味分析-現象素とコア図式と容器のメタファーを中心に-」『日 語日文學研究』47 韓國日語日文學會 pp.281-302
- _____(2004)「認知意味論の日本語教育への活用方案考察-動詞『とる』とTPR教授法を中心 に-」『日語日文學研究』49 韓國日語日文學會 pp.299-317
- 村木新次郎(1994)『日本語動詞の序章』ひつじ書房 p.216

要 旨

本稿の分析対象である動詞「とる」は多義的で数多くの意味を有する。そして、日常生活でも多く使われる言葉として、研究価値の高い言葉であるということができらるだろう。しかし、それに値する幅広い研究は行われていないのが現状である。そこで、本稿は『大辭林』『廣辭苑』『日本國語大辭典』の意味記述を先行研究として取り上げ、動詞「とる」の意味記述を行うことにする。

ところで、三辭典ともに「とる」の相反する「獲得」と「除去」の意味を分けて記述していない。また、所有と關わる意味がまとまって配置されていない。このようなことを正し、本稿は次のように意味項目を設け、意味記述を行う。

- 1 「獲得」と關わる意味項目
 - 1-1 第1義「具体的動作」
 - 1-2 「所有」と關わる意味項目
 - 1-2-1 第2義「獲得」
 - 1-2-2 第3義「捕獲、確保」
 - 1-2-3 第4義「占有」
 - 1-3 第5義「選擇、抽出」
 - 1-4 第6義「作成」
 - 1-5 第7義「遂行」
 - 1-6 第8義「解釋」
- 2 「除去」と關わる意味項目
 - 2-1 第9義「除去」

意味項目の配置順序は抽象的な意味を後に配置しながら、類似した意味項目(「所有」)はまとめて配置する。また、他の意味項目と非常に異質的な意味項目(「除去」)は最も最後に配置する。そして、本稿の意味記述は細分化するより、まとめる方針を取ってきたことを記しておく。

キーワード : 基本動詞、とる、多義、意味分析、意味項目、意味記述

투 고 : 2004. 8. 31
 1차 심사 : 2004. 9. 11
 2차 심사 : 2004. 10. 2

住 所 : (609-735) 부산광역시 금정구 장전동 산30 부산대학교 일어일문학과
 電 話 : (051)510-1509 / (019)9290-5589
 E-mail : parksk3000@naver.com